

れき じん

# となん歴民だより vol.6

Morioka tonan folklore museum

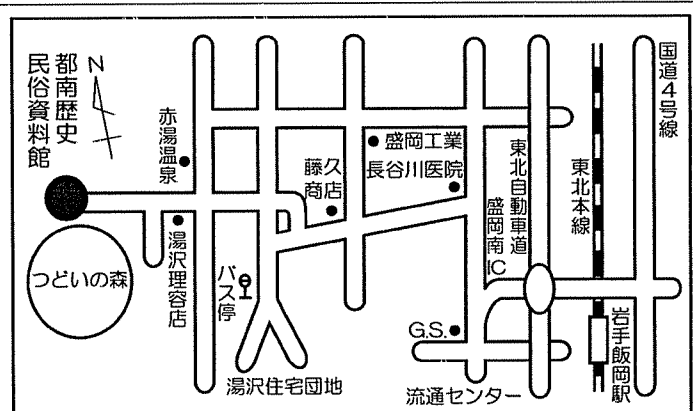
平成 18 年 3 月 28 日 発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel.019-638-7228



当館所蔵写真パネルより「雛祭りの供物」

## MAP ☆ACCESS



### ○利用案内

開館時間 午前9時から  
午後4時まで

入館料 無料

休館日 月曜日  
(休日に当たるときは、  
直近の平日)

年末年始

### — もくじ —

- ・ 展示紹介
- ・ 指定文化財紹介⑥
- ・ 民具・農具を貸出します！
- ・ 資料の活用
- ・ 貸出し資料例
- ・ 資料は語る⑥
- ・ となんの昔ばなし⑥

## 展示紹介「教科書のうつりかわり」

教科書とは、学校における教科の主な教材として学習に用いられる図書のことです。

古代において教育を受けることができたのは、官吏、神官、僧侶等の一部に限られた支配者層としての人たちでした。その時、教科書として使用されたのが、四書五経、ブエダ、ウパニシヤッド、聖書等でした。

私たちの国でも教育を受けることの出来たのは貴族等の子弟で、ごく限られていました。使われた教科書は、中国から移入されたもので、内容は高度で、多くは写本でした。近世になると、戦いがなくなった事や商業が発達し経済的にも余裕がでてきた事などにより、限られた人たちのみならず、一般庶民の教育に対する要望が高まってきました。その教育の中心は生活に必要な読み書きソロバンでした。

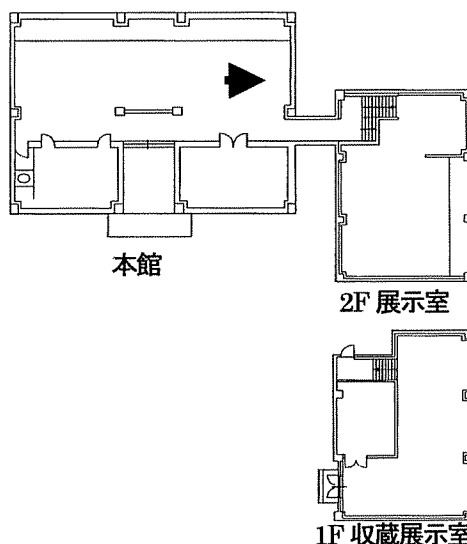
明治以後、政府は制度を整えて、新しく全国に学校を設置することにしました。それらに伴って教科書も様々な物へと変化しました。

当資料館には江戸時代以降に使用された教科書が多数保存されています。その時代ごとの教科書は下記の通りで、これらの時代の教科書を本館の一部で展示を行っています。江戸時代以降に私たちの国の教科書が時代とともにどのように移り変わってきたのかをご覧ください。

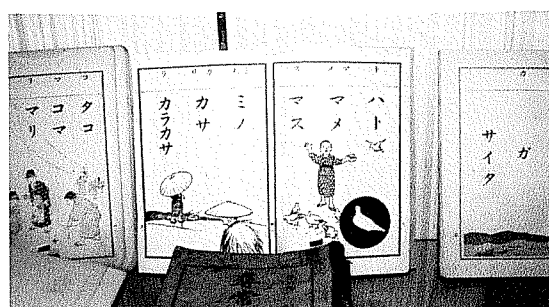
- 1 漢籍・往来物教科書(江戸時代)
- 2 翻訳教科書(明治5年～12年)
- 3 再儒教教科書(明治13年～18年)
- 4 検定教科書(明治19年～36年)
- 5 国定教科書(明治37年～昭和20年)
- 6 文部省著作教科書(昭和21年～23年)
- 7 新検定教科書(昭和24年～現在)



「教科書のうつりかわり」の展示



「教科書のうつりかわり」の展示場所



展示の一部 (国定教科書(明治37年～昭和20年))

## 盛岡市所在指定文化財紹介 ⑥



### せいとうぎ ぼし 国指定重要美術品 青銅擬宝珠

昭和20年(1945)8月3日指定 旧法文部省

盛岡城下、上ノ橋の欄干につけられた青銅鑄物擬宝珠18個が国の重要美術品に指定されています。南部家所伝によれば、この擬宝珠は第12代南部遠江守政行が在京中に、加茂川の橋の擬宝珠を移すことの勅許を得て、領国三戸城熊原川の橋に取り付け、黄金橋と称したといいます。

中津川は北上・雫石両川の合流地点に注ぎ、三川落ち合って、水勢・水の量の変化が激しく、しばしば洪水の厄に遭い、落橋・流失を繰り返しました。そのたびに不足した擬宝珠は鑄直して常に原数に復元され、寛政年中には上ノ橋18個の擬宝珠が付けられていたと「篤焉家訓」に記録されています。

なお、下ノ橋の18個の青銅鑄物擬宝珠は、大正元年11月に中ノ橋が洋式架橋されたため、下ノ橋に移されたもので、市の有形文化財に指定されています。

参考・引用資料/ 盛岡市教育委員会 盛岡の文化財 1997

昔の暮らしを見つめてみよう

—学校や地域活動団体などへ—

## 農具・民具を貸出します!

当資料館の、数多くの民俗資料を学校や子ども会、地域活動などの場に広く役立てていただくために、所蔵資料の一部を貸出します。長い年月のあいだ使い込まれてきた資料一つ一つにはその家々の暮らしぶりや手づくりの道具に対する使い手の愛着が見え、手にとってはじめて知ることがとてもたくさんあるものです。

資料の借受を希望する場合は、当館にご連絡下さい。

## 貸出し資料の活用

—学校教育の現場で—

実際の資料を観察することによって、写真や文章などからでは分からない、その資料のより詳しい作りや機能なども発見できます。さらに、手に触れることによって、より当時の生活を実感できます。

### 「農具・民具を貸出します!」を利用して

今回、社会科の学習「昔の道具」の教材として資料館さんから、ヒノシと炭火アイロンをお借りしました。ひしゃく形のヒノシがまさかアイロンとしての役目を果たしていたとは、子供たちは予想も付かなかったようです。実際に触れることで、子供たちの昔の道具に対する興味がより高まったようです。

盛岡市内小学校 教諭



ヒノシ

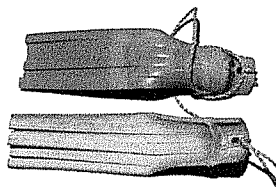


炭火アイロン

## 貸出し資料例

当資料館では資料の収集と保存を行っています。そのうち貸し出し可能な一部の資料をここでは紹介します。

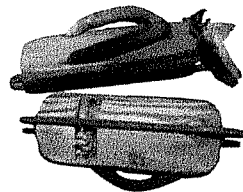
### 竹スキー



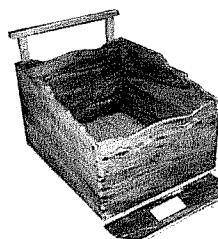
竹を曲げて作ったスキーの代用品で、子供たちの遊び道具の一つでした。

### 下駄スケート

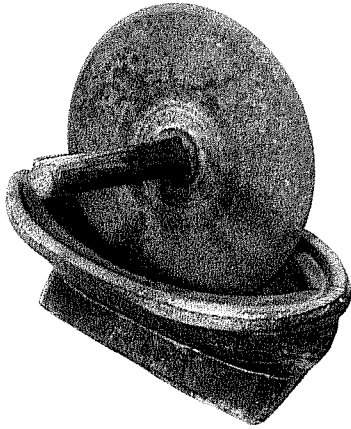
下駄の裏に鉄の歯を付けた道具で、凍りついた雪の上を滑ります。スケートの代用品です。



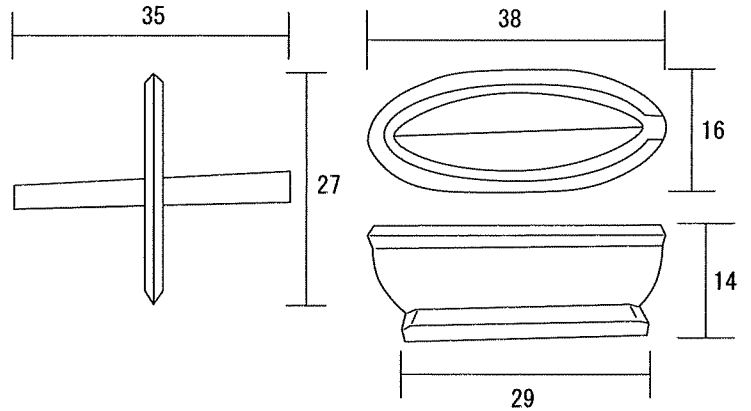
### 箱ソリ



木で作られた箱型のソリで、子供の遊び道具として以外に、買出しや荷物運びにも使われました。



薬研(湯沢)



法量(cm)

この道具の名前は薬研といい、木製または金属製の器具で、漢方薬の粉碎に用いられることで知られていますが、ゴマ、トウガラシ、魚などをするものや砕鉢用のものもあります。細長い舟形で、中央部のV字状にくぼんでいる所に砕くもの入れ、円板形の車に通した軸を両手でつかんで前後に押しこころがして砕きます。当資料館には鉄製の車と、木製の軸と器からなる資料が保存されています。

参考・引用資料／ 名古屋市博物館 「白・食の道具」 1979 川井村教育委員会 「川井村民俗誌 民具編 一図説・民具とその周辺」 2000

となんの昔ばなし⑥  
『狐にだまされた話』

大ヶ生の江柄(えがら)では、昔、どこの家でも馬を飼いかわいがって育てていました。春になると、朝、うすぐらい中から馬をつれて山の草原に行き、一日中放して草をたべさせ、夕方になれば連れてかえって来ました。このことを「馬放し」と言って、どこの家でもやったものでした。

昔、江柄のある家に、急(なま)け者(なまけもの)でいたずら好き、さらに欲の深い一人の若者がいました。父親が馬放しに行けと言うと、その若者は、大きなおにぎり五つくれなければいやだと言って聞きませんでした。仕方なしに麦飯の大きなおにぎりを五つ作って渡しました。若者はよるこんでそれを持って馬を引いて馬放しにでかけました。その途中に池があり、その土手の上で狐の親子がじゃれあっていました。それを見つけた若者は大きな石を投げつけました。石はみごとに狐にあたり、狐はキャンと大声をあげて親子ともども土手からころげて池の中にジャボンと落ちましたが、すぐ這(は)いあがって山の方へ逃げて行きました。若者は「ああ気分よかった」と言いながら、また馬にまたがって馬放しにむかいました。馬放し場の入口までくると、そこにはたくさんの人が集まり、太鼓(たいこ)や笛(ふえ)の音もして、にぎやかでした。ははあ、これはお祭(まつり)だな、よいとき馬放しに来たよ、お祭のにぎわいの中に入って行きました。おもちゃやたべ物(たべもの)を売る店、見世物小屋(みよものこや)もならんでいます。若者は見てみたいものだと思世物小屋の看板(かんばん)をみていると、そこに見たこともない母と娘(むすめ)がやって来ました。美しい着物を着た、色の白い美しい母と娘(むすめ)でした。二人は若者におなか(はら)がへって困っているからおにぎりを一つくださいな、としきりにねだるので、若者は一文もしないおにぎりを五文でなら売ってよいといって売りました。

その後、若者は「のぞき」という見世物(みよもの)がおもしろそうだと、受付(うけつけ)のいない間にこっそり中に入りました。「のぞき」という見世物(みよもの)は、さげ(さげ)てある幕(まくら)をそと(そと)とあけて色々な物語(ものがたり)の絵(え)を見せるといふものでした。若者は幕(まくら)をそと(そと)とあけて中(うち)をのぞきましたが、まっ暗(くろ)で何も見えません。どうしたことかと、いくら幕(まくら)をあけても何も見えません。見え(み)ないはず(はず)です。若者が幕(まくら)だと思(おも)ったのは馬(うま)のしっぽ(しっぽ)だったので。馬はうるさい奴(やつ)だといわんばかりに、後脚(うしろあし)で若者(わかし)を思いきり(思いきり)けとばし、若者(わかし)は地面(ぢめん)に倒(たお)れました。うるたえ(うるたえ)起きあ(起きあ)が(が)ってあたり(あたり)を見廻(みまわ)しました(みまわ)しましたが、それまでいたたくさん(たくさん)の人(ひと)や見世物(みよもの)小屋(こや)はなくなり、祭(まつり)りのにぎ(にぎ)やかな音(ね)もありませんでした。若者(わかし)はは(は)っとし、さ(さ)っきの五文(ごもん)の銭(ぜに)はどうしたのかと、ふところ(ふところ)に手(て)をい(い)れて探(たず)ねましたが銭(ぜに)は一文(いちもん)もなく、その代(しろ)わりに丸(まる)い石(いし)ころ(ころ)が五つ(ご)入(い)っていました。さらに四つ(よっ)つあるはず(はず)の大きいおにぎり(おにぎり)の(の)かげも形(かたち)もなくな(なくな)っていました。(終)

■ 出典 『となんの民話』

(都南歴史民俗資料館)